

<目指す学校像>
生徒が「日本一だ」と誇りをもって
卒業することができる学校

<学校教育目標>
志高く 心豊かな生徒
主体的に学び、考える生徒
たくましく生きる生徒

熊谷東中学校だより
第6号

東雲

令和3年10月29日発行

4つの実践
○箸ごはんをしっかりと食べる。
○呼ばれたら「はい」と元氣よく返事をする。
○「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
○友だちをたたくさんつくる。

スマホ使い方の善悪
自分や周りの人の権利を守ります。
他人を尊重してください。

3減運動
テレビの時間を減らします。 ゲームの時間を減らします。 スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。

熊谷市立熊谷東中学校生徒会

ミツバチに負けない

～行事の多い後期に特に心がけてほしいこと～

熊谷市立熊谷東中学校長 伊藤 幸男

さて、今日は「ミツバチに負けない」という話をしたいと思います。

今、私は実験社会科学という分野の研究をされている方が書いた本を読んでいるのですが、遠い昔に高校の生物で勉強したような面白い話題を目にしました。

私たち人間の脳は、群れ・集団を基盤として考え、作られていると言います。集団の中でうまくやっていくために、考えたり悩んだりして行動するメカニズムを進化させてきました。ですから、様々な集団の中で、友人とのやりとりを通して私たちが悩んだり考えたりしてしまうことは当然のことです。その経験を通して「社会的な心」が備わっていくのです。人間生活の根本的な基盤は「集団」にあります。チンパンジーやオラウータンなどの霊長類も同様です。そして、何と社会性昆虫と呼ばれるハチやアリも、生活の基盤は集団なのだそうです。そういえば、美しい花の周りを飛び回るハチは一匹ではなく複数ですし、多くのアリがきれいな列を作り地面をてくてく歩くのを見かけたことがあるでしょう。

学級活動や委員会、生徒会の場面で、話し合いを通して集団で意思決定するという仕組みは、人間だけが持つ特許のように感じていましたが、ミツバチもその力を備えているというのです。

具体的話をします。夏の初め頃、ミツバチは分蜂と呼ぶ巣立ちをします。ひとつの巣に住むミツバチの数が増えすぎると、女王バチは働きバチの三分の二ほどを引き連れて新しい巣を求めて移動を始めます。元の巣には娘の新女王が残りの働きバチと共に残ります。巣を離れた一万匹近いハチたちは、近くの木の枝などに仮の宿を作った上で、その中の数百匹が「探索委員会」として新たな巣の候補地を探しに飛び回ります。そして、これらのハチは仮の宿に戻ってくると、自分が見つけた候補地について、8の字ダンスをして、巣の候補地情報や蜜のありかを仲間に伝えます。この時のダンスの長さや熱心さが、見つけた巣の候補地をそのハチがどの程度よいと感じたかを反映しているのだそうです。つまり、8の字ダンスは人間でいう投票や意見表明に相当するのです。まだ、探索に飛び立っていないハチは、帰ってきたハチのダンスによるPRをみて、自分が探しに行く方向を決めます。そして仲間から「いいね」という合意がある程度超えると、仮の宿にいたハチ全体が新しい巣に引っ越しをするのです。自分たちの巣はとても大切な場所です。みんなで必死になって候補地を探し、巣作りに取り組み、そして移動していくわけです。

さあ、話を皆さんに戻します。後期は色々な行事が予定されています。学校行事をぜひハチの巣と捉えてみてください。人間の脳とは比べものにならないほどのマイクロブレインしか備わっていないミツバチが、命懸けて仲間に情報伝達しながら巣を作り上げるように、学級や学年、部活動単位で、仲間と話し合い、動き回り（練習をして）、素晴らしい行事を作っていってほしいと私は願います。ミツバチにできることが人間である皆さんにできないはずがありません。

「ミツバチに負けない」がっ中生の姿に後期は期待したいと思います。何気なく過ごすのではなく、ぜひ、チームワークで何かを築くことのできる後期にしていきたいと思います。

（「後期始業式のことば」より）





熊谷東中歳時記(10月)

東

前期終業式・後期始業式

新型コロナウイルス感染症対策で、全校で体育館に集まることを避けているため、校内ネット環境を活用して実施しました。



生徒会本部役員選挙

新生徒会本部役員選出のため、1週間選挙活動を行い22日(金)に選挙が行われました。1,2年生が中心となる生徒会がスタートします。



第61回体育祭



10月28日(木)に延期されていた第61回体育祭を縮小プログラムで実施することができました。仲間を感動させる一生懸命な姿がありました。

